

一人ひとりの夢・思いを大切に

福祉 しなふくニュース

編集人 しなふくニュース編集委員会 発行人 永田 一元
 発行所 品川総合福祉センター 〒140-0003 東京都品川区八潮5-1-1
 電話 03(3790)4839 法人URL <http://www.shinafuku.com> E-mail info@shinafuku.org

目次

- (一) らうんじ
- (二) 「コロナに負けない！私たちの今」
- (三) 品川区中延障害者計画相談事業所開設／私達の風景④
- (四) ボランティア紹介／大井三丁目紹介（縁側カフェ）
- (五) 豆知識／法人まつり中止のお知らせ／しなふくの窓



本部ロビーの幻想的なアートフラワーウォール
 制作者のE.A.S.Eの皆さんと（関連記事四面）

らうんじ

秋の気配が色濃くなってまいりました。

この度の新型コロナウイルス拡大に伴う緊急事態宣言の発出、解除された後事態の収束が見えない中、当法人各事業所においても取り得るすべての感染症対策を実施し、事業の継続をしてまいりました。職員と同様に利用者の皆様

にも慣れ親しんだ日常に変化が生じました。「利用者の皆様は変化を嫌うのではないか」と心配していた私達をよそに、限られた条件の中で、新たな日常を楽しみつつあります。人の無限の可能性と強さを感じるとともに、この困難を皆様と共に乗り越えたときにはさらに、新しい品川総合福祉センターになっていることを想像し、楽しみでもあります。

困難の時こそ様々なことに気づかされます。品川区役所から配布された衛生物品に感謝し、関係者の皆様の励ましの声を受け、職員一同一致団結して取り組むこの状況をチャンスに変えていければと思っています。

今後ともこれまで同様、皆様のお力添えお引立てをよろしく願っています。

総務課長 荒川 敦明

「コロナに負けない!」私たちの今

かえで荘 リモート面会

冬季から面会の制限を実施してまいりました。当初は「暖かくなれば会うことができ」とそんな気持ちで、春を待ち望んでいました。しかし、新型コロナウイルスは終息を迎えるどころか、猛威を振るい続けました。そのような状況下、利用者もご家族も本当はお互い「会いたい」気持ちでいっぱいだったと思います。

そんな皆様の思いを少しでも受け止めるべく、5月下旬より「リモート面会」をスタートさせました。初めは、職員もご家族も慣れない面会方法に



「お母さん、ここ見て〜」
(IF・ご家族)

右往左往しました。それも、久しぶりにモニター越しに会う利用者のお顔に「思った以上に元氣そうでした」
「笑顔の母の顔を見ることができて本当に嬉しかったです」
「写真ではなく元氣な姿を見て安心しました」等々たくさんのお言葉をいただきました。また、ご家族の皆様から最後に必ず「職員さんも大変でしょうけど頑張ってくださいね」と心温まる言葉を頂戴しました。本当にありがとうございます。そして、一日も早く安心してモニター越しではなく直接会うことができるようになることを心より願っています。



「皆の顔が見れて嬉しいねえ」
(かえで荘のフロアーにて)

八潮中央保育園 コロナ対策の工夫

新型コロナウイルスの流行により子ども達が楽しみにしていた行事や日中の過ごし方についても感染症対策を取りながら、子どもらしさを失わずのびのびと元氣に過ごせるようにと工夫をしています。その中からいくつかご紹介いたします。

- ①丁寧な手洗い
子どもが使いやすい石鹸ボトルでこまめに手洗いを行っています。0歳から「アワアワしようね」と保育士と一緒に手洗い。手の洗い方や大切さを伝えていきます。



「アワアワしようね!」
楽しく手洗いしています

③パーティションの導入
食事は楽しく食べたいし、話題の豊富な子ども達はお話も大好き。パーティションによつて飛沫予防を行っていません。透明なアクリル板を使っているのでお友達の顔は見えるので安心です。
なにより、今まであたりまえに行っていたことが、集団、密を避ける為、難しくなっています。職員の工夫や発想の転換により子ども達の笑顔を失わずに過ごせている事に感謝しています。



當緒の職人(職員)が丁寧に製作したアクリル板は、約25枚にもなりました!
いろいろな場面で大活躍!

地域福祉課 ちふく丸 来たよ!!

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入所の利用者の生活はいろいろな制限が加わり、生活が一変しました。

そんな中でも施設では安全な環境を整え細心の注意を払いながらも、利用者が生活を楽しめるものを考え、現場職員も試行錯誤、日々奮闘を重ねています。

毎月一回の文化堂さんの移動スーパ―「とくし丸」も受入れが難しい月もあり、また、お買い物にもなかなか行けない状況もあります。

そこで、地域福祉課では、



「何があるの〜？」
笑顔でワゴンを覗いて



「お好きなものをどうぞ」
「あら、それもいいの?」

文化堂さんより寄贈いただいたお菓子をワゴンに乗せ、かもめ園とかえで荘のフロアーに行きました。

音楽を流し、何が来るのだろうかというワクワク感を演出。ワゴン一杯のお菓子をのせて、ちよっとしたゲームで、ボラティエイさんが作ってくださいました手作り品をプレゼントしたり、本家「とくし丸」ではないけれど、「ちふく丸」として、フロアーにひと時のワクワク感をお届けしました。

文化堂さんにもボランティアさんにも会えないけれど、皆様のおかげで利用者を楽しませることができた有難い一日でした。

さつき 更に意欲的に! そして笑顔で!

出口の見えないコロナウイルス禍の中、就労の場としてのさつきは、緊急事態宣言下、通所自粛要請の中でも通所される方々と作業を継続し、取引企業様の要望に応え、毎日作業に取り組んでいました。

解除後は通所を自粛される方も殆どなく、一人一人が、マスクの着用、手洗いや手指消毒に気を付ける事はもちろん、作業場のレイアウトの変更、清掃・消毒の徹底等、職員と一丸になって行っています。



感染対策をしながらの作業風景
(8号棟 作業場)

す。幸い取引企業様からの発注は、多少減少したものの変わらずお仕事をいただき、様々な作業をおこなっています。



休憩時間
(マスクを着けて、距離をとって)

また、このような状況でも、新たに通所を開始された方、通所回数を増している方、新たな仕事にチャレンジする方、これまでと変わらぬ、それ以上に意欲的に作業に取り組んでいます。

そんなさつきの日常には、コロナ禍による不自由さの中にも互いに協力し合い、笑顔(目元しか見えませんが)で言葉を交わす皆さんの姿があります。

品川区中延障害者 計画相談事業所開設



く障害のある方のそれぞれ
のあゆみ。そして安心して高
齢期を過ごせる地域にしてい
くために。いくつになっても
その人らしく支えたい。

品川区による障害者福祉の
新展開の一つとして、「高齢
障がい者」の方に寄り添える
相談支援を目指すべく「品川
区中延障害者計画相談支援事
業所」が中延複合施設内に
「区内第一号」として、令和
元年十二月一日に開設しまし
た。

地域の在宅介護支援センタ
ーに、障害相談支援事業所を併
設し、専門相談員を配置する



桜の下、光差す、
新しい看板と
新しい自転車

事で、若年・
青年期等と
は異なる利
用者やご家
族の状況に、
より専門的に相談支援をして
いく事業所です。



新しく看板に
表示されました

また、対象年齢などに応じ
て、障害者福祉サービスから
介護保険への円滑な移行や、
専門機関との連携によるコー
ディネートや公的サービスの
支給に必須である利用計画書
の作成などをしていきます。

加齢による様々な変化や不
安に寄り添うだけでなく、障
がいがありながらも、個々の
人生において獲得してきた
「自立」とその方自身の「良
いところ」を見つめながら支
援していきたいと思います。
電話…五七五一一七一九七
FAX…五七五一一七一九八

「私たちの風景」vol.4 「本部ロビー」 EASEさん、ありがとうございます!



EASEさんへ
沢山のメッセージ!

品川総合福祉セ
ンターの本部入口
正面の空間が、七
月末から八月の間
華やかに彩られま
した。

撮影や空間コー
ディネートなどを
行っている会社
「EASE(イーズ)」
を運営されている
株式会社ペンコミュ
ニケーション社長
の福島澄男氏は
「ロビーで立ち止
まる人が増え、利
用者・家族・職員・
センターに関わる
全ての方が、コロ
ナ禍で沈んだ気持
ちが少しでも明る
くなるように、そ



デザイナーの
中井さんと
永井さん

して笑顔が気持ちを変え、行
動が変わると、生活も変化し、
人々の関係性も変わり、全体
の雰囲気も良くなるように！」
との思いを語ってくださいま
した。

ディスプレイを見るやいな
や歓声と共に「見た瞬間に気
持ちは明るくなった！」と言
われた利用者、普段はお部屋
にいたことが多く方も、見た
くて一階に降りてきました。
ご家族は、「手の込んだ飾り
の素晴らしさとイーズさんの
思いに感激した」と、涙を浮
かべる方も。職員からも「気
持ちは華やぐだけでなく、応
援して下さる思いが嬉しい！」
と声が聞かれました。

イーズさんの真心に心から
感謝すると共に、ますます頑
張ろうと胸に熱いものがこみ
上げてきました。

ボランティア紹介 ~丸山とく子様~



バスタオルをお手拭
タオルにチェンジ!

今回は本部施設のボランティア、丸山とく子さんをご紹介します。丸山さんの法人の活動は、品川総合福祉センター開所当時から、現在に至りま



コロナ禍前の
施設での活動風景

さす。途中何年か交通事故のリハビリでできなかつた期間はありませんが、その間のいろんな人に助けてもらったというご経験を経て、ますます「頼ってくださる人は助けてあげたい」という気持ちが強くなったそうです。長年の活動では、手芸や縫物、洗濯たたみ、行事のお手伝いなど、お手伝いして下さっている内容は多岐にわたります。最近のコロナ禍で、ボランティア活動ができません中でも、バスタオルを持ち帰り、裁断し小さいサイズに縫うという活動をずっと続けてくださっています。そのタオルは、利用者のお手拭きとして活用されています。利用者にも「お母さん」と慕われ、品福とのご縁を楽しんでくださっていることに心から感謝の気持ちで一杯です。これからも末永くよろしくお願いたします。

大井三丁目高齢者憩いの場 「縁側カフェ」をご紹介します

現在コロナ禍でプログラムは中止していますが、大井三丁目高齢者憩いの場にて、毎月第二金曜日午後に行われていたミニ健康教室をご紹介します。対象は区内在住の六十歳以上の方で、ご自身で通うことができる方であればどんなことも参加することができま

す。地域の薬剤師、管理栄養士、歯科衛生士、マツサージュ師等が講師となり、年齢とともに注意が必要なことや、日常生活で気をつけて生活してほしいことなどをテーマに、お茶を飲みながらアットホームな雰囲気で開催しています。この日は薬剤師・



この日は薬剤師・
済藤美香さん(左)
のお話です



皆さん興味津々です

皆さんにとつて興味のあるテーマが多く、メモをとったり、隣の方同士意見交換しながら有意義な時間を過ごすことができています。介護食品や肌水分のテーマの回では、実際に介護食品の試食や肌水分測定を行い「味付けが良くて美味しい」「嫌だ、そんなに乾燥しているの」など一喜一憂する様子も見受けられました。これからも地域の方が、身近に利用できる交流の場となればと考えています。(コロナが落ち着きましたら、再開を予定しています)

「ベラキャン」は いかがですか？

現在も人込みを避けて生活をされている方は多いかと思
います。手軽に季節感を味わ
え、秋の夜の安全な
過ごし方として「ベ
ラキャン」「家キャ
ン」はいかがでしょ
うか。ご存じの方も
多いと思いますが、
感染症予防で三密を
避けるようになり、
春先から一気にこの
言葉の認知度が高ま
りました。

ベランダでキャン
プをすることを「ベ
ラキャン」または
「ベランピング」、自分の家
の庭などでキャンプをするこ
とを「家キャン」または
「家キャン」と言います。

SNSなどでも多くのベラ
ンダキャンパーによる実際の
キャンプの様子が紹介されて



います。

ベランダに簡易テーブルと
イスを置いて、外の風を感じ
たり、夕景を楽しみながら食
事をしたりと、家の中のキャ
ンプより少しだけ自然に近い
感覚が味わえます。室内は場
所としては狭いですが、子供たちも一緒
にちよつとした料理
やランタンを用意し
て、キャンプの雰囲
気を味わうことがで
きるのでお勧めです。
戸建の場合は、もう
少し本格的な疑似体
験が可能になります。
雨天の場合は自宅の
車庫で、晴れた日は
庭にテントを張って、
バーベキューも楽し

めます。

自宅にいて
も、アイディ
ア次第で様々
な楽しみ方が
出来るのでお
勧めです。



お祭り中止のお知らせ

十月に開催を予定しており
ました、毎年恒例の本部八潮
の地域交流事業「しなふく紅
葉フェスタ」と、中延複合施
設の「くつろぎ祭」ですが、
新型コロナウイルス感染拡大
防止のため、中止することと
いたしました。

開催を楽しみにしていた皆
様には、大変申し訳ありませ
んが、何
卒ご理解
を賜りま
すようお願い
いたします。
あげます。



しなふくの窓

このコーナー
は普段は目にと
まらないちよつ
としたものを紹
介していくコー
ナーです。

今回は、七月
に品川総合福祉
センター本部の
入り口に飾った七夕飾りを紹介
いたします。

品川清掃工場からいただいた
笹に、今年は、疫病から人々を
守るとされる妖怪「アマビエ」
のモチーフを飾りました。



利用者が作ったアマビエも
願いと共に飾りました

利用者のため、家族のため、
仲間のため、自分のため、そし
て大切な人のため。私たち一人
ひとりができることをしっかりと
やっつけていく。私たちの未来のた
めに願いを掲げました。